

# 一般社団法人 日本土壌肥料学会 2021 年度通常総会

## 議事

### 第 1 号議案 2020 年度事業報告、収支決算報告および監査報告

#### I. 2020 年度事業報告（令和 2 年 3 月 1 日～令和 3 年 2 月 28 日）

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が事業の遂行に大きく影響し、通常総会、理事会、各種委員会、年次大会、若手の会、支部大会、主催講演会は、当初計画通りの開催が困難となった。海外での感染拡大の影響も大きく、若手海外渡航支援や、国際会議等への代表者派遣も中止せざるを得なかった。

こうした状況に対して、総会は全代議員によるみなし決議、年次大会（岡山大会）は初めてのオンライン開催、支部大会は感染対策を行った現地開催またはオンライン開催、理事会は全てオンライン開催、各種委員会は一部（学会賞等選考委員会、選挙管理委員会）を除きメール会議やオンライン会議を行った。さらに、オンラインによる「土と肥料」の講演会開催、国際会議等への対応などが行われるとともに、会誌・欧文誌もほぼ計画通り刊行された。その結果、2020 年度事業計画に掲げた多くの事業が実施された。

また、岡山大会における学生会員の参加登録費および発表料の無料化、北海道大会に向けた若手会員を対象とする優秀発表表彰の創設、会費の減免等に柔軟に対応できる定款・細則の変更の検討など、COVID-19 の影響により直接・間接的に生じた課題への対応も行われた。

これらは会員各位の協力とともに、実施担当者の尽力によるところが大きく、コロナ禍のなかで新たな対応方法を模索し、大胆に実行する契機にもなった。

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

##### 1) 定期刊行物

(1) 日本土壌肥料学雑誌（会誌）は、第 91 巻第 2 号～6 号、第 92 巻 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数は次の通りである。報文 24 編、ノート 10 編、技術レポート 5 編、講座 3 編、解説 1 編、資料・国内外情報等 15 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 2 編、奨励賞受賞論文要旨 5 編、技術奨励賞受賞論文要旨 1 編、ニュース（地域の動きを含む）、書評、欧文誌 Vol.66 掲載論文要旨、合計 471 頁、ほかに第 91 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより（土壌教育活動だよりを含む）等。

(2) SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION（欧文誌）は、発刊時期に遅延が見られたものの、Vol.66, No.2～No.6 および Vol.67, No.1 の 6 冊を刊行した。掲載した論文数は次の通りである。通常論文 61 編、短報 1 編、特集論文 13 編、レビュー 1 編、SSPN Award 等 4 編、会誌掲載論文要旨、合計 770 頁。

(3) 日本土壌肥料学会講演要旨集（第 66 集、257 頁）を 2020 年度岡山大会（9/8～10）に際し、電子媒体として刊行した。

##### 2) その他の刊行物

Springer 社より The Soils of Japan が刊行された。

## 2. 講演会および研究会等の開催、支援

### 1) 「土と肥料」の講演会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大の影響により、2020年5月11日、東京大学山上会館において開催予定であった「土と肥料」の講演会は延期となり、11月13日にオンライン講演会として開催した。テーマは「食と農の将来を支える土と肥料：スマート農業と土づくり」、講演者と演題は、春日健二氏（農林水産省消費・安全局 農産安全管理課付 食品安全情報分析官）「肥料取締法の改正の目指すもの」および藤井弘志氏（（株）ファーム・フロンティア代表）「ICT技術を活用した近未来の稲作生産システム」である。本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施し、約150名の参加者があった。講演要旨は参加者がダウンロード可能にし、講演会後には学会HPに講演スライドとともに掲載した。

### 2) 2020年度年次大会

- (1) COVID-19の影響により岡山大会は倉敷市での開催を断念し、オンライン開催に切り替えて2020年9月8日（火）～10日（木）に開催した。一般講演はLINC Bizシステムを使用したポスター発表とし、発表演題数は417（正会員286、学生会員131）であった。大会への参加者数は636名（正会員447、学生会員143、非会員46）であった。
- (2) シンポジウムは、公開シンポジウムを含めて4つのテーマのシンポジウムを実施した。公開シンポジウムはLINC Bizシステムを利用し、その他はZoomウェビナーを使用した。
  - 4,6部門：植物の元素イメージング（9/10）
  - 6部門：おいしい果物を作る土・肥料【公開シンポジウム】（9/10）
  - 5,6,7部門：肥料取締法の抜本的改正を受けた土壌管理の再点検（9/8）
  - 1,6,7,8部門：日本のOECD農地の窒素収支の改善方策と耕畜連携の推進方向（9/10）
- (3) 高校生による研究発表会はLINC Bizを利用して行った。12課題（8校）の発表があり、最優秀賞1件、優秀賞3件を表彰した。
- (4) 学会賞等授賞式はZoomウェビナーを利用して行った（9/9）。

#### 第65回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・浅川 晋：水田土壌生態系におけるメタンの生成・酸化に関わる微生物の生態に関する研究
- ・俵谷圭太郎：菌根共生系のリン応答と持続的作物生産・環境修復への応用研究
- ・藤嶽暢英：腐植物質の分析法、特徴付けおよび反応性に関する研究

#### 第25回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・柴原藤善：水田生態系における土壌微生物バイオマス窒素の動態解明と環境負荷低減技術の開発および琵琶湖流域における水質保全効果の定量的評価
- ・須藤重人：農耕地温室効果ガスの高精度測定法開発と温暖化緩和策研究への活用

#### 第38回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・一家崇志：チャのゲノム情報整備と栄養生理学に関する研究
- ・泉 正範：オートファジーによる葉緑体の分解経路に関する研究
- ・田中伸裕：イネの無機栄養吸収蓄積と成長制御に関する分子遺伝学的研究
- ・李 哲揆：土壌中の有機物由来の炭素循環と、有機物施用による植物病害の抑止に関わる微生物の研究

#### 第9回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・蓮川博之：水田農業における温室効果ガス排出量削減技術の開発とその定量評価

#### 第9回日本土壌肥料学会貢献賞受賞者と受賞業績

- ・原田靖生：変革期における新たな学会運営に向けた諸対応

日本土壌肥科学雑誌論文賞の受賞者と受賞論文名

- ・江口定夫、平野七恵：日本の消費者の食生活改善による反応性窒素排出削減ポテンシャルと国連 SDGs シナリオに沿った将来予測
- ・南雲俊之、森田明雄：茶園のもつ二酸化炭素吸収源機能

SSPN Award 受賞者と論文名

- ・Yoko Masuda, Hideomi Itoh, Yutaka Shiratori, Keishi Senoo :  
Metatranscriptomic insights into microbial consortia driving methane metabolism in paddy soils

(5) 日本土壌肥科学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞および日本農学賞・読売農学賞の受賞者による記念講演は Zoom ウェビナーを利用して行った。

日本土壌肥科学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞の受賞者と受賞業績

- ・(4) に記載の通り。

2020 (令和 2) 年度日本農学賞・読売農学賞受賞者と受賞業績

- ・南澤 究：窒素循環を担う植物共生微生物に関する研究

(6) 日本土壌肥科学雑誌論文賞および SSPN Award 受賞論文については、受賞記念ポスターを 9 月 9 日に LINC Biz を利用して発表した。

(7) 日程の最後に Zoom ウェビナーを利用した閉会式を開催し、岡山大会運営委員長および 2021 年度北海道大会運営委員長の挨拶を行った。

(8) 年次大会がオンライン開催となったため、従来行ってきたミニシンポは実施せず、若手の会および懇親会は中止となった。

### 3) 支部大会

COVID-19 の影響でオンライン開催とした支部もあり、また、感染対策を行い現地開催とした支部もあった。

- ・北海道支部：秋季支部大会は、とかちプラザ（帯広市）にて開催し(11/25)、24 題の研究発表が行われ、参加者は 64 名であった。支部シンポジウムは「転換する土壌肥料～国際土壌の 10 年に向けて～」をテーマとして 4 題の話題提供があった。第 23 回支部野外巡検は、感染予防のため中止となった。
- ・東北支部：支部大会は、当初計画の 6 月開催を延期とし、オンライン開催 (12/4) として、南澤究氏による日本農学賞・読売農学賞受賞記念講演「窒素循環を担う植物共生微生物に関する研究」とポスター発表 15 題であった。参加者は合計 32 名で、チャットの形式による討論が行われた。
- ・関東支部：支部大会 (11/27) を 熊谷文化創造館さくらめいと (熊谷市) において開催し、21 題のポスター発表が行われた。参加者は 47 名であった。
- ・中部支部：支部例会 (11/16～17) は、石川県政記念しいのき迎賓館 (金沢市) において開催され、55 名が参加した。特別講演 3 題、ポスターセッション 10 題、一般講演 10 題が行われた。
- ・関西支部：当初計画では松山市開催予定であった支部講演会は、11/26～12/6 (ポスター閲覧とチャットによる質疑応答)、12/3 (ポスター発表、シンポジウム、企業等展示) の日程でオンライン開催し、参加登録数は 75 名であった。ポスター発表は 20 題で、参加者は 48 名であった。
- ・九州支部：支部例会 9/28～10/5 (ポスター展示 30 題、参加登録 65 名)、9/18 (支部賞授賞式・受賞記念講演 2 題) をオンライン開催した。2021 年度支部賞候補の推薦無しのため選考委員会は開催されなかった。

### 4) その他

- ・日本地球惑星科学連合 2020 年度連合大会 (5/26～30 の開催予定が COVID-19 の影響により 7/12～16 のオンライン開催に変更) のセッション「水圏生態系における物質輸送と循環:源流から沿岸まで」を共催した。
- ・第 33 回環境工学連合講演会 (5/19 開催予定) を共催し、本学会より江口定夫会員が「食料生産～消費システムの窒素フローと窒素フットプリント」を講演予定であったが、COVID-19 の影響により延期となった。
- ・第 30 回環境工学総合シンポジウム (6/24～26、和歌山県普賢院等) を協賛予定であったが、COVID-19 の影響によりシンポジウムは中止となった。
- ・第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会 (7/7～9、東京大学弥生講堂) を協賛の予定であったが、COVID-19 の影響により発表会は中止となった。
- ・施設園芸・植物工場展 2020 (7/15～17、Aichi Sky Expo) を協賛の予定であったが、COVID-19 の影響により延期 (2021.7/14～16) となった。
- ・第 64 回粘土科学討論会 (9/15～16、信州大学長野キャンパス) を共催予定であったが、COVID-19 の影響により 2021 年度開催に延期された。
- ・第 36 回近赤外フォーラム (11/24～26、オンライン開催) を後援した。
- ・日本腐植物質学会第 36 回講演会 (11/28、オンライン開催) を協賛した。
- ・酸性雨国際会議 Acid Rain 2020 (10/19～23 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター) を共催予定であったが、COVID-19 の影響により延期 (2022.3/1～4) となった。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

2020 年 10 月 16 日に選考委員会を開催し、2021 年度日本農学賞の推薦候補者、第 66 回日本土壌肥料学会賞、第 26 回同技術賞、第 39 回同奨励賞、第 10 回同技術奨励賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞および SSPN Award の受賞者を審査し以下の通り選定した。

#### 第 66 回 日本土壌肥料学会賞

- ・林 健太郎：土壌を要とした窒素の環境動態および人間圏フローの研究
- ・樋口 恭子：オオムギを中心とした植物の包括的アルカリ耐性機構の研究
- ・和崎 淳：低リン耐性植物の根分泌物による難利用性リン可給化機構に関する研究

#### 第 26 回 日本土壌肥料学会技術賞

- ・宮丸 直子：サトウキビの安定多収に向けた土壌改良技術の開発と普及啓発

#### 第 39 回 日本土壌肥料学会奨励賞

- ・原 新太郎：土壌植物系における窒素・リンの動態に関わる微生物の研究

#### 第 10 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞

- ・大家 理哉：水田における家畜ふん堆肥施用時期を考慮した施肥設計技術の確立
- ・塩野 宏之：積雪寒冷地水田からの温室効果ガス削減と水稻生育改善技術の開発
- ・山根 剛：家畜ふん堆肥ペレット施用後の一酸化二窒素発生制御に関する研究開発

#### 日本土壌肥料学雑誌論文賞

- ・井上 弦、中尾 淳、矢内純太、佐瀬 隆、小西茂毅：京都府宇治市の茶園土壌を用いた覆下栽培の発祥時期の推定
- ・郷内 武、藤田 裕、佐野智人、大浦典子、須藤重人、朝田 景、江口定夫：黒ボク土ナシ園における豚糞堆肥を活用した代替施肥による大気圏および水圏への窒素負荷軽減効果

#### SSPN Award

- ・Kazunobu Toriyama, Taku Amino, Kazuhiko Kobayashi : Contribution of fallow weed incorporation to nitrogen supplying capacity of paddy soil under organic farming

#### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

##### 1) 日本農学会関係

- ・2020 年度日本農学会シンポジウム「水と農学」の開催に協力し、本学会より江口定夫会員が「農地土壌における水移動と環境保全」を講演した (10/3)。
- ・2021 年度日本農学会シンポジウムのテーマおよび話題提供の募集に対応した。

##### 2) 日本学術会議関係

- ・日本学術会議による報告「日本における農業資源の潜在力を顕在化するために生産農学が果たすべき役割 (9/1 公表)」、報告「都市域土壌の現状と課題 (9/15 公表)」、提言「地理総合で変わる新しい地理教育の充実に向けてー持続可能な社会づくりに貢献する地理的資源能力の育成 (8/25 公表)」、「未来からの問いー日本学術会議 100 年を構想する」、などを本学会 HP および FB に掲載して会員への周知を図った。
- ・日本学術会議が主催する講演会、研究会の開催案内等を学会 HP、FB に掲載して会員へ情報提供した。
- ・日本学術会議会員推薦者の任命に関して、日本学術会議第 181 回総会における「第 25 期新規会員任命に関する要望書 (令和 2 年 10 月 2 日付)」の内容を支持する理事会声明を学会 HP に掲載して表明した (10/15)。

##### 3) IUSS、ESAFS 等関係

- ・第 44 回ナイジェリア土壌学会 (ナイジェリア・エヌグ、3 月) への小崎 IUSS 会長出席を支援予定であったが、COVID-19 の影響により派遣中止となった。
- ・第 6 回土壌分類に関する国際会議 (ICSC: メキシコ・ケレタロ、4 月) へ担当者派遣を予定していたが、COVID-19 の影響により会議が延期となった。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会 (EGU: ウィーン、5 月) に代表者派遣を予定していたが、COVID-19 の影響によりオンライン開催となった。
- ・チリ土壌学会 (サンチャゴ、5 月) への IUSS 会長の出席を支援する予定であったが、COVID-19 の影響により派遣中止となった。
- ・Global Conference on Sandy Soils (アメリカ・マディソン、6 月) へ代表者を派遣し、IUSS 会長の出張を支援する予定であったが、COVID-19 の影響により会議が延期 (2021 年) となった。
- ・IUSS 中間会議 (英国・グラスゴー、8 月末~9 月) へ学会長および Chair/Vice Chair 担当の学会員を派遣し、IUSS 会長の出張を支援する予定であったが、COVID-19 の影響により、オンライン会議 (11/18~23) となった。
- ・塩性土壌の修復に関する国際会議 (中国・長春、9 月) への IUSS 会長の出張を支援する予定であったが、COVID-19 の影響により会議が延期 (2021 年) となった。
- ・IUSS が出版する「Soil Sciences Education: Global Concepts and Teaching」100 冊を IUSS 傘下の土壌学会等に配布する経費支援を行った。
- ・本学会の犬伏和之前会長が IUSS 名誉会員に選出された。日本人では 12 年ぶり 6 人目である。
- ・ESAFS サポートオフィス HP を更新し、関係国際会議の開催情報等を発信した。

##### 4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・日本土壌肥科学雑誌 国内 10、国外 12
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 16

## 5. 本学会の委員会等活動

### 1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、COVID-19の影響により東京大学山上会館での開催が延期となったが、オンライン開催した(11/13)。次年度も、2021年度第44回総会後(2021.5/22)に「土と肥料」の講演会を開催し、日本学術会議の後援を受けるよう企画し、開催案内を会誌公告・学会HP、FBに掲載して周知を図ることとした。

### 2) 財政基盤整備委員会

- ・本学会の会員数推移および財政状況に鑑み、学会活動の活性化および会員サービスの向上を図りつつ健全な財政を達成するための方策について、全理事から提案を集めて整理し、理事会において検討した。

### 3) 土壌教育委員会

- ・岡山大会において「高校生による研究発表会」を大会1日目(9/8)の16:30~19:30にLINC Bizを利用したポスター発表形式でオンライン開催し、8校12課題の発表が行われた。大会参加者とチャットによる熱心な質疑応答が行われ、最優秀ポスター賞1課題、優秀ポスター賞3課題を選出し表彰した。表彰結果と会長、大会運営委員長、土壌教育委員長の講評を学会HPに掲載した。
- ・こどもエコクラブ全国一斉活動「大地を感じ・大地を知る ジオアクション JAPAN」がCOVID-19の影響で一旦中断となった。
- ・中部支部が長年実施してきた「土壌観察会」等の取組について、愛知県および名古屋市による「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」におけるグッドプラクティスに選定された。
- ・委員による教育活動(「光る泥だんごづくり」(6/13)、ワークショップ「土は生きている?」(7/19)、調布市エコクラブ活動「泥染め体験」(8/22)、出前授業「地面をつくる土の粒と雨水の行方」(9/11 寄居町、9/23 深谷市)、ワークショップ「土と砂のちがいは」とは」(10/18)、ワークショップ「土の中の生き物を探せ」(10/24)など)を行い、その概要は「土壌教育活動だより」として会誌に掲載した。

### 4) 広報対応

- 会誌の会告およびニュース、学会ホームページ(HP)、フェイスブック(FB)、メーリングリスト(ML)によって、学会の活動概要、各種募集情報、シンポジウム等イベント情報、年次大会・支部会開催情報等を発信した。
- ・学会HPに「土と肥料」の講演会概要等の記事および講演要旨等を掲載した。
- ・学会HPトップページに欧文誌特集記事等へのリンクをバナー表示して情報発信の強化を図った。
- ・岡山大会での「土壌モノリス展示」について、土壌教育委員会、大会運営委員会、関西支部、ペドロロジー学会との窓口となり準備したが、COVID-19の影響により年次大会がオンライン開催となったため、展示企画は中止となった。
- ・「エコプロ2020(11/26~28 東京ビッグサイト)」に出展の申込みを行ったが、COVID-19の影響により開催が中止となった。
- ・世界土壌デー2020の記念イベントとして、国立科学博物館に展示されている土壌モノリスの展示解説がCOVID-19の影響で通常開催できなくなったことから、解説動画を、日本ペドロロジー学会、埼玉川の博物館、国立科学博物館と共同して作成した。動画は国立科学博物館公式サイトで公開されており、本学会ではFBにより発信した。

### 5) 国際土壌の10年関連活動

- ・「国際土壌の10年(2015~2024)」における諸活動の一環としてIUSSから依頼のあった

土壌学に顕著な貢献をした人物へのインタビューについて、日本人の IUSS 名誉会員 3 名へインタビューを完了し、日本学術会議 IUSS 分科会を通じて IUSS へ提出した。

- ・土壌の重要性の認識向上を目指した各種啓発活動の実施、小崎 IUSS 会長および役員の国際関連活動の支援、ならびに一般会員の各種国際関連活動の支援を目的として 2018 年度より開始した寄付活動は、小崎 IUSS 会長の任期が終了し、かつ COVID-19 の影響で学会員の海外渡航が大幅に制限される中で、一定の成果を挙げてその役割を果たしたと考え、2021 年 2 月末を以てひとまず終了し、ご協力へのお礼とともに会誌および学会 HP、FB に掲載することとした。

## 6) 男女共同参画学協会連絡会への対応

- ・連絡会が企画する「加盟学協会の活動推移調査」に回答した。
- ・女子中高生夏の学校 2020 は COVID-19 の影響で延期となった。

## 6. 会務報告

### 1) 会員の動向

(1) 2021 年 2 月 28 日における会員数は次のとおりである。

正会員 1,658 名（うち会費免除正会員 70 名、外国正会員 15 名）、賛助会員 37 社、名誉会員 11 名、学生会員 287 名（うち留学生 65 名）、国内団体購読会員 93 団体  
合計 2,121 名・団体

(2) 2021 年 2 月 28 日までの入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 68 名、学生会員 100 名（うち留学生 20 名）、賛助会員 1 団体  
合計 169 名・団体

退会：正会員 139 名（うち会費免除会員 6 名、外国正会員 11 名）、学生会員 143 名（うち留学生 26 名）、国内団体購読会員 5 団体、賛助会員 1 団体  
合計 288 名・団体

### 2) 会議

(1) 総会：2020 年 5 月 11 日、東京大学山上会館において第 43 回通常総会を開催する予定であったが、COVID-19 の影響により通常開催できない事態となった。そこで、一般社団・財団法人法第 58 条第 1 項および本学会定款第 18 条第 3 項、第 4 項の規程に基づいて、総会のみなし決議を行った。その結果、第 1 号議案（2019 年度事業報告、同事業報告の附属明細書、同収支決算報告、同監査報告）および第 2 号議案（2020 年度事業計画、同収支予算案）について、5 月 8 日までに代議員 100 名全員から同意が得られ、総会での決議があったものとみなされた。また、みなし決議に関する総会議事録は、2020 年度第 1 回理事会で承認され、一連の経過を会誌 91 巻 4 号に掲載した。

(2) 理事会：COVID-19 の影響により、理事会は全てオンライン会議として 6 回（5/9、7/18、10/17、12/19、1/23、3/20）開催され、所要の事項・会務を報告・審議し、その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、COVID-19 の影響下での年次大会の開催方法と学生会員への支援、年次大会での学会賞等授賞式並びに記念講演等の計画、消費税改正における総額表示への対応、学会財政の赤字解消策、会誌および欧文誌の企画・投稿・編集・刊行の状況、欧文誌の出版契約更新への対応、広報・土壌教育委員会・部門長会議の諸活動、他学協会・機関とのイベントの共催・後援・協賛、小崎 IUSS 会長の活動支援、若手育成・支援、学術会議関係の諸課題、大会開催巡の変更、名誉会員の推薦、外部顕彰への推薦対応 財政課題への対策、定款・細則の変更等について審議し、実施してきた。

(3) 部門長会議：部門長会議は、第 1 回（3/10～16）、第 2 回（6/16～19）をメール会議で行い、岡山大会におけるシンポジウムの公募に対する 4 件の企画案について検討し、いずれも採択した。LINC Biz によるオンライン開催となった岡山大会一般講演のプログラム編成、

部門長・副部門長の交代等について検討した。第3回部門長会議(10月)では、2021年度北海道大会におけるシンポジウムの計画および若手を対象とする優秀発表表彰の創設、会誌進歩総説企画および欧文誌への部門長会議からの企画等についてメール会議で検討した。

- (4) 2020年度学会賞等選考委員会：学会事務所において会長を議長として開催し、2021(令和3)年度日本農学賞の推薦候補者、第66回日本土壌肥料学会賞、第26回同技術賞、第39回同奨励賞、第10回同技術奨励賞の受賞者を選考した(10/16)。その結果は第3回理事会(10/17)での承認を経て、会誌91巻第6号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文とSSPN Award受賞論文を選考した。その結果も第3回理事会での承認を経て、会誌91巻第6号に掲載した。
- (5) 会誌編集関係：2回の常任編集委員会(7/25 オンライン会議、10/8~10/12 メール会議)および2回の拡大編集委員会(7/31~8/14 メール会議、10/7~10/14 メール会議)を開催した。「地域の動き」の再開に向けて、趣旨と具体的な内容および原稿依頼から刊行までの手順等を整理した。2020年度以降の講座テーマを検討した。投稿規程および執筆規程を一部改定し、会誌92巻1号および学会HPに掲載した。会誌は第92巻1号(2021)までを、日本土壌肥料学会講演要旨集は第66集(岡山大会2020)までをJ-STAGEに掲載した。
- (6) 欧文誌編集関係：COVID-19の影響で欧文誌編集委員会はメール会議(5月、9月)となった。論文の投稿・編集・刊行は概ね順調で特段の問題はない。部門長会議提案の欧文誌レビューおよび2019年度の学会賞等受賞者によるレビューの企画が進められた。SSPN特集セクションでは、「New frontiers of the nature, function and use of volcanic soils」が66巻5号、「Research frontiers on the use of sensing technologies and ICT for soil and fertilizer managements」が66巻6号に掲載された。新規に2件の特集セクションの企画が承認された。欧文誌の出版契約更新時期に当たり、複数案を検討し、学会財政面と会員サービスの点から、従来の5年ごとの更新から10年間の契約とすることを承認した。なお、契約更新により欧文誌購読会費の値上げはなく、会員のオンラインアクセス権も従来通り維持される。
- (7) 支部における会議  
北海道支部：第1回支部評議員会(6/下旬)をメール会議により実施した。第2回支部評議員会および支部総会(11/25)はとちプラザ(帯広市)において開催した。  
東北支部：支部役員会および支部総会の6月開催が延期となり、その後の諸事情により開催を見送った。  
関東支部：支部幹事会および支部総会(11/27)は、熊谷文化創造館(熊谷市)において開催した。  
中部支部：166回支部評議員会(5/下旬)をメール会議にて開催した。167回支部評議員会(11/16)および80回支部総会(11/17)をしいのき迎賓館(金沢市)にて開催した。  
関西支部：支部役員会(2021.1)をメール会議により開催した。  
九州支部：2020年度支部総会、支部常議員会(9/18)をオンライン開催した。
- (8) 支部長連絡会：支部・本部間、支部間の連携を深めるために支部長連絡会をオンラインで開催し(9/26)、各支部の活動報告と計画、消費税改正に伴う支部における総額表示への対応、年次大会の開催巡の改訂案、若手の育成方策について情報共有および意見交換を行った。
- (9) 選挙管理委員会：2020-2021年度選挙管理委員長および委員を選任し、第1回委員会(5/27、オンライン会議)において選挙日程等を確認した。第2回委員会を学会事務所で開催し(10/7)、投票用紙を代議員選挙の有資格者に発送した。第3回委員会を学会事務所で開催して(11/4)代議員選挙の開票を行い、選出代議員100名へ会長選挙投票用紙を発送した。第4回委員会を学会事務所で開催して(12/2)会長選挙の開票を行い、代議員へ副会長・監事選挙投票用



紙を送付した。第5回委員会を学会事務所で開催して（1/13）副会長・監事選挙の開票を行った。以上の選挙結果を会長へ報告した。

### 3) その他

- ・若手会員の海外学会等の発表渡航費支援については、COVID-19の状況に鑑み、本学会として若手会員の海外渡航を進める状況にないと判断し、募集を停止した。
- ・2022年度年次大会は、藤原 徹氏（東京大学）を大会運営委員長とし、東京農業大学（世田谷キャンパス）において開催することを決定した。
- ・外部顕彰へ本学会から推薦を行い、2020（令和2）年度日本農学賞・読売農学賞を南澤 究会員が受賞した（4/5）。
- ・日本学術会議 IUSS 分科会を通じて推薦した犬伏和之前会長が、IUSS 中間会議（11/18～23）において、日本人では12年ぶり6人目のIUSS 名誉会員に選出された。
- ・本学会元会長の小崎 隆 IUSS 会長（受賞時）が、米国土壌科学会（SSSA）2020年度大会（11/9～13）において、国際的なシーンでの土壌科学への卓越した貢献を称えるために贈られる国際土壌科学賞（International Soil Science Award）を日本人で初めて受賞した。
- ・本学会から推薦した牧野 周会員の2021（令和3）年度日本農学賞・読売農学賞受賞が決定した（2/15）。

## Ⅱ．2020（令和2）年度事業報告の附属明細書

事業報告の附属明細書として記載すべき事項はない。